

概況

1 製造業

一般機械	: おおむね横ばいで推移
輸送用機械器具(自動車部品)	: おおむね横ばいで推移
電気機械器具	: おおむね横ばいで推移
金属製品	: 一部に上向き動きがみられる
プラスチック製品	: 一部に上向き動きがみられる
印刷・出版	: 厳しい状況が続いている
銑鉄鋳物(川口)	: 一部に上向き動きがみられる

2 小売業

大型小売店	
百貨店	: おおむね横ばい
スーパー(総合・ディスカウント)	: 弱い動きが続いている
商店街	: 厳しい状況が続いている

3 情報サービス業

ソフトウェア業	: おおむね横ばい
---------	-----------

1 製造業

(1) 一般機械 『おおむね横ばいで推移』

【業界の動向】県内の一般機械の鋳工業生産指数は、平成18年4月以降前年同月を上回って推移してきたが、10月から一進一退で推移しており、直近の平成19年1月は前年同月と比べると3.0%上回った。

【景況感】「前年に比べ良くなっており、好況といえる」との声も聞かれたが、「仕事量は変わらず、普通である」や「受注は昨年に比べ多少下がっているが、ある程度は維持されており、普通である」などとする企業が多く、おおむね横ばいとなっている。

【売上げ】「減った」とする企業もあったが、「増えた」とする企業が多かった。増えた企業からは、「産業用機械や製缶が良い」や「半導体製造装置関連は全体的に良い」などの声が聞かれた。減った企業からも、「今年度前半悪かった主力部門の売上げが、後半になって戻りつつある」との声が聞かれた。

【受注単価】すべての企業で「厳しいままほとんど変わらない」としている。「現在も値下げ要求が来ている。インフレにはならない」や「原材料価格の増加分は、相変わらず価格に転嫁できない」などの声が聞かれ、厳しい状況が続いている。

【原材料価格】すべての企業で「上がった」としている。「ニッケルの高騰によりステンレスが大幅に上昇している」、「鉄はスクラップ価格の上昇により上がっている」や「アルミが上がっている」などの声が聞かれた。

【採算性】「原材料価格が大幅に上昇しており、悪くなった」とする企業もあったが、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。原材料価格は上昇しているが、売上げの増加でカバーしているため、採算はほとんど変わらない企業が多い。

【品目別の状況】「印刷機械は引き続き順調に推移している」、「射出成形機は自動車関連で減少している」や「半導体製造装置関連は現在調整局面だが、それほど落ち込んでいない」などの声が聞かれた。金型の状況については、「自動車関連が減ってきている」との声が聞かれた。

【設備投資】当期はすべての企業で実施した。来期についても、ほとんどの企業で実施する予定である。「設備投資を無理にでもやっていると受注に対応できない。それができるかどうかで、企業によって差がついてきている」との話が聞かれた。

【今後の見通し】「良い方向に向かう」とする企業もあったが、ほとんどの企業が「先行き不透明」としている。

(2) 輸送用機械器具（自動車部品） 『おおむね横ばいで推移』

- 【業界の動向】国内の四輪車生産台数は、平成19年2月には前年同月に比べ1.9%の増加となり、16か月連続で前年同月を上回った。
- 【景況感】「顧客企業の売上げは減少しているが、自社については売上げ及び採算から好況といえる」と話す企業もあるものの、「前期までと変わらず、仕事はあるものの原材料高が落ち着かないため、良い状態とは言えない」や「すごく良いわけではない。普通である」など、ほとんどの企業が「普通である」としており、おおむね横ばいとなっている。
- 【売上げ】「自社製品は輸出に回っており、前年同期に比べ10%近く増えている」や「製品構成の変化で、それほど多くはないが増えている」など、すべての企業で前年同期に比べ増加している。また、トラックについては、「内需が減ってきているが、輸出でカバーしている。内需の減少も、昨秋時点での想定よりも下がっていないようだ」との話が聞かれた。
- 【受注単価】「下がった」との話も聞かれたが、多くの企業が「ほとんど変わらない」と話していた。「下がった」とする企業からは、「値下げ幅について、一旦妥結したが、顧客が再度交渉したいと言ってきた。このままでは収まらないだろう」との話が聞かれた。また、「ほとんど変わらない」とする企業からも、「今までは変わらずにきたが、4月から、数%程度ではあるが値下げの話がきている」など、先行きを懸念する声が聞かれた。
- 【原材料価格】「自己調達分がほとんどないので、あまり変わらない」との話も聞かれたが、「ステンレスが大幅に上がっており、4月からまた引き上げられる」など、「上がった」とする企業が多かった。また、「ステンレスの納入の2割カットが続いており、さらに鉄線の納入カットの話も来ている。ここまで来ると自助努力では対応できない」と話す企業もあった。
- 【人件費】「受注の増加に対応するため、増員した」ことなどから、「増えた」とする企業が多かった。また、「他社の大規模工場開設による人員の流出対策として、若い社員を中心に賃金の若干の見直しをしないといけない」と先行きを警戒する企業もみられた。
- 【採算性】「良くなった」とする企業もあったが、「悪くなった」とする企業の方が多かった。「利益率の悪化を売上げの増加でカバーしている」と話す企業があった。
- 【設備投資】当期もすべての企業で実施しており、「増設と、新製品の増産対応を実施した」や「新製品の受注対応と更新投資を実施した」などの話が聞かれた。
- 【今後の見通し】「顧客の話を見ると、今年いっぱい今の良い状態が維持できる」、「輸出向けは好調であり、輸出向けの取扱いが多い自社は良い方向に向かうが、顧客は内需の落ち込みの影響が大きく、ますます悪くなる」や「仕事は増えているが、中身を見たら良くない。高くなった原材料価格が下がらず、バランスが崩れている」など、企業により様々だった。

(3) 電気機械器具 『おおむね横ばいで推移』

- 【業界の動向】県内の電気機械の鋳工業生産指数は、平成18年12月から2か月連続で前年同月を下回っており、直近の平成19年1月は前年同月と比べると4.9%下回った。
- 【景況感】「仕事量はあるので不況ではないが、良いとの実感が無い」、「いくら仕事量があっても、利益が伴わないため、好況とは感じられない」や「経済成長率が2%だというのが、ほとんどが大手企業の成長によるものであり、中小企業の成長率は1%以下ではないか」など、すべての企業が「普通である」としており、おおむね横ばいで推移している。
- 【売上げ】「常に新規開拓をしているため、維持できている」と話す企業もあったが、「顧客が生産調整に入ったため、3月は前年に比べ大幅に減少した」や「今年は大手が好決算だったためか、期末の『駆け込み発注』がなかった」など、「減った」とする企業が多かった。
- 【受注単価】「ある顧客が強引に値下げを要求してきているが、まだ認めていない」や「値下げ要求はエンドレスだが、銅などの原材料価格が上昇しているため、顧客によっては値上げを認めてもらった」など、様々な声が聞かれた。
- 【原材料価格】「自己調達分が少ないため、ほとんど変化がない」とする企業もあったが、「すべての原材料がジワジワ値上がりしており、特にプラスチックが一番影響を受けている」や「絶縁体関連で値上げ要請があった」など、「上がった」とする企業が多かった。
- 【採算性】「原材料価格の値上がり」と、売上げの減少により悪化した」など、「悪くなった」とする企業が多かった。また、「悪いのはプリント基板のみである。しかし、プリント基板は製品構成の中核であり、これをやめると全体的な相乗作用がなくなってしまうため、やめる訳にはいかない」との声も聞かれた。
- 【設備投資】「クリーンルーム化を継続しており、併せて生産設備を導入した」など、当期は多くの企業が実施した。来期については「設備が老朽化してきているので、更新していく」や「時代の流れに乗るため、常に実施していく」など、すべての企業が実施を予定している。
- 【今後の見通し】「期待を込めて『良い方向に向かう』としたい」と話す企業もあったが、「現状が続くのではないか」とする企業が多かった。また、「待っているだけでは駄目であり、常に先を見て自ら掘り起こしていかないといけない」と話す企業もあった。

(4) 金属製品 『一部に上向く動きがみられる』

【業界の動向】県内の金属製品の鉱工業生産指数は、平成18年12月に5か月ぶりに前年同月を下回ったが、直近の平成19年1月は前年同月と比べると0.4%上回った。

【景況感】「忙しいが、それが直接利益に結びつかないため、普通である」や「悪くはなく、普通である」など、すべての企業が「普通である」としているが、「原材料価格の増加分について、価格転嫁ができてきており、この状況が続いていけば好況といえるようになるのではないか」との声も聞かれ、一部で上向く動きがみられる。

【売上げ】「新規事業がうまく立ち上がらなかったため、減った」とする企業もあったが、「中国へ出ていたロットの大きい仕事が、品質の問題から国内へ戻ってきており、その受注が増加し忙しい」や「遠心分離器などの医療機器関連については、輸出向けが引き続き好調である」など、「増えた」とする企業が多かった。

【受注単価】「原材料価格は上昇しているが、価格転嫁はできない。どの時点で価格転嫁を認めてもらえるかわからない」など、「厳しいままほとんど変わらない」とする企業が多かったが、「ニッケルを主に扱っている企業で価格転嫁ができたので、上がった」とする企業もあった。

【原材料価格】「ニッケルが上がっている」や「真鍮、ステンレスや銅が上がっている」など、「上がった」とする企業が多かった。ほとんど変わらないとする企業からも、「鉄などを中心に高値で安定している」との声が聞かれ、依然厳しい状況が続いている。

【採算性】「良くなった」とする企業もあったが、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。「ほとんど変わらない」とする企業からは、「売上げは増加したが、受注単価は上がらず、原材料価格や人件費が増加したため変わらなかった」との声が聞かれた。

【品目別の状況】自動車関連、医療機器関連や事務機器関連の受注は安定しており、弱電関連も動き出している。一方、半導体製造装置関連や携帯電話の小型中継基地設備関連には一服感が出てきている。

【設備投資】当期は多くの企業で実施しており、「設備投資を行わないと受注がとれない」との声も聞かれた。来期については、「仕事量が増加しているため、実施する」、「今後の受注動向をみながら考える」や「増設はしないが、ある部門の機械設備を2台から1台に集約するなど効率化を図っていく」など様々であった。

【今後の見通し】「先行き不透明」とする企業もあったが、「新規事業の体制が整ってくるので、良くなっていく」や「目に見えて改善するとまではいえないが、良くなっていくと思う」など、「良い方向に向かう」とする企業が多かった。

(5) プラスチック製品 『一部に上向く動きがみられる』

【業界の動向】県内のプラスチック製品の鉱工業生産指数は、平成18年8月以降、11月を除き前年同月を上回って推移しており、直近の平成19年1月は前年同月と比べると0.7%上回った。

【景況感】「大手は良い。中小企業は不況とまではいえないが、良くはない」など「普通である」とする企業が多かったものの、「売上げは伸びてきたので、好況といえる」とする企業もあり、一部に上向く動きがみられる。

【売上げ】「増加した」とする企業と「減少した」とする企業に分かれた。品目別では、「電機関連は、携帯電話の無線基地向けや半導体関連が伸びた」、「医療機器関連は在庫調整などにより、減少した」や「トラック関連は減少した」などの声が聞かれた。

【原材料価格】「ポリプロピレンをはじめ、価格は落ち着いている」や「高止まりは変わらない」などの話が聞かれた。

【受注単価】すべての企業が「ほとんど変わらない」としているが、「コストダウンの要請がきており、値下げを検討している」や「現在の受注単価を検証したところ、採算の合わないものが見出されたので、取引先に対して単価の引き上げを働きかけている」などの話が聞かれた。

【採算性】「良くなった」とする企業と「ほとんど変わらない」とする企業に分かれた。「ほとんど変わらない」とする企業からは、「受注単価を全面的に見直している」との話が聞かれた。

【設備投資】当期は「複合機を更新した」と話す企業があった。来期については、「作業効率を高めるために、産業用ロボットを1台導入する。使用して良い結果が出れば、増設したい」とする企業があった。また、「今後、医療機器関連の受注動向を見て、無人室を設置するかどうか検討したい」と話す企業もあった。

【今後の見通し】「新規取引先が開拓できたので、売上げの増加が見込まれる」や「計測器関連の新製品の量産化が見込まれる」など、「良い方向に向かう」とする企業が多かった。

(6) 印刷・出版 『厳しい状況が続いている』

【景況感】「今期の売上げは、少し回復してきた」との声もあるものの、「付加価値の高い仕事が減り続けている」や「受注単価の低迷が続いている」など、「不況である」との声が多く聞かれ、厳しい状況が続いている。

【売上げ】「工程の見直しにより、繁忙期の受注を増やすことができたので、増えた」と話す企業もあったが、「若干減った」や「単価が下がったために、受注は増えたが、売上げは2割位減った」など、当期も前年同期を下回った企業が多かった。

【受注単価】「下がった」とする企業もあったが、「変わらない」とする企業が多かった。「下がった」とする企業からは、「原稿をデータで受け取る仕事が増え、組版代が取れないことから下がっている。しかも、修正にかかる手間は増えているが、この部分は請求できない」との話が聞かれた。「変わらない」とする企業からは、「原材料価格の増加分を転嫁できる状況になく、上がらない」などの話が聞かれた。

【原材料価格】印刷用紙については、「値上げ要請はあるが、まだ上がっていない」と話す企業が多かった。「いずれ受け入れざるを得ないだろうが、もし大幅に上がるようなら、下請けの仕事は、材料支給にしてもらうことも考える」との声も聞かれた。製版材料については、「来期に15%程度値上げされるので、大量に使う企業は厳しくなる」と話す企業があった。

【採算性】「悪くなった」とする企業もあったが、「生産性向上により良くなった」とする企業もあった。

【個別分野の状況】商業チラシや多色刷印刷の分野は、前年並みの受注だった。官公庁関連については、「市町村の広報紙の受注は、例年並みだった」と話す企業があった。また、電子入札については、「受注単価が下がる」との声がある中で、「入札案件を日々チェックしており、営業からとダブルで情報が入るようになった」や「官公庁の仕事はやっていなかったが、得意な仕事を探さようになった」などの声も聞かれた。選挙関連については、「数件新たな仕事を取った」や「それほど良い仕事ではないので、やらない」などの声が聞かれた。

【設備投資】「品質の向上・確保のため、設備を導入した」と話す企業があったが、ほとんどの企業は当期も実施していなかった。また、来期も予定している企業は少ないものの、「生産性を上げるため、新たに機械を導入することを検討している」と話す企業があった。

【今後の見通し】「業界全体の受注は減っている」や「下請けではなく、自社で価格設定できる製品を開発しないと、厳しい」など、「悪い方向に向かう」とする企業が多かった。

(7) 銑鉄鋳物（川口） 『一部に上向く動きがみられる』

【業界の動向】銑鉄鋳物（川口）の生産量は、平成18年10月に5か月ぶりに前年同月を上回った後、11月に再び下回ったが、直近の12月は前年同月と比べると0.2%上回った。

【景況感】「仕事はあるのでそれほど悪くないが、収益面が問題である」など、「普通である」と話す企業が多かったが、「受注量からいえば好況だといえる」と話す企業もあり、一部に上向く動きがみられる。

【売上げ】「ほとんどの部門で変化はないが、全体では多少減少している」、「1、2月は顧客が生産調整したため減少したが、3月は一気に増えた」や「底ばいで推移している」など、様々な声が聞かれた。

【原材料価格】金属製品の盗難事件が相次ぐほど鉄関連が上昇しており、「スチールスクラップは昨年末から大幅に上昇しており、この1年で3割アップした」や「副資材も含め、銑鉄やニッケルなども上がっている」など、かなり厳しい状況である。

【受注単価】「原材料価格上昇分の価格転嫁を要求しても、『検討する』で終わってしまう」や「材料の仕入先はその時点の相場で売ってくるが、我々はその都度値上げできる訳ではないので辛い」など、厳しい状況にある。なお、この4月には業界各社が足並みを揃え、ユーザーあてに原材料価格上昇分の価格転嫁を要望する。

【採算性】「原材料価格の高騰により、急激に悪くなっている」など、「悪くなった」とする企業が多かった。また、「今は仕事量があるから何とかなっているが、このままではギリ貧である。今まで以上にコストを削減していく必要がある」との話が聞かれた。

【個別分野の状況】「引き続き大型建設機械向けが好調であるほか、自動車用プレス機関連が増加傾向にある。しかし、射出成形機関連は減少気味である」や「公共事業（橋梁関連）は、今後受注が増えそうだが、低価格入札の影響が大きい」などの話が聞かれた。

【設備投資】「フォークリフトを入れ換えた」とする企業もあったが、「利益が出ないためできない」ことなどから、「実施しなかった」とする企業が多かった。来期についても予定のない企業が多かったが、「生産能力増強のため、電気炉を入れ替える」とする企業もあった。

【今後の見通し】「今年いっぱい現状のままだと思うが、来年以降はわからない」や「すべては中国次第である」など、「先行き不透明」とする企業が多かった。また、「原材料価格の高騰分を製品価格に転嫁できるかが最大の課題である」との声が聞かれた。

2 小売業

(1) 大型小売店

百貨店 『おおむね横ばい』

【業界の動向】商業販売統計によると県内百貨店の販売額は、既存店ベースでは平成18年12月に2か月ぶりに前年同月を下回ったが、平成19年1月以降は2か月連続で上回っている。全店ベースでも平成18年12月に2か月ぶりに前年同月を下回ったが、平成19年1月以降は2か月連続で上回っている。

【景況感】「催事は盛況だったが、売上げの増加には今一步つながっていない」など、すべての店舗が「普通である」と話しており、おおむね横ばいとなっている。

【売上げ】売上げ全体では、減った店舗もあるものの、ほとんど変わらない店舗が多かった。主力の衣料品については、「あまり振るわなかった」と話す店舗が多かった。暖冬により、「紳士スポーツ、特にゴルフウェアが売れた」や「婦人のスプリングコートが、前年に比べ2～3割伸びた」などの話が聞かれたが、「暖冬で売れる商品の分母は小さい」や「暖冬のあと、春先に冷え込んだ日が多かったため、春物に弾みがつかなかった」などと話す店舗が多かった。また、「1月のクリアランスは順調だったが、その後の冬物セールの動きが悪かった」との声もあった。

服飾雑貨・婦人雑貨は、増えた店舗が多かった。「特に、バックや靴などの革製品が売れている」や「ブーツが季節物ではなくなってきていて、伸びている」などの話が聞かれた。

食料品は、ほとんどの店舗が前年並みだった。「名店は堅調である」、「生鮮3品は落ちている」や「精肉は売れているが、野菜などはスーパーに客が流れている」などの声が聞かれた。また、「バレンタインデー商戦は良かった」と話す店舗が多く、「そのおかげで、加工食品は食品の中で一番伸びた」との声も聞かれた。

【採算性】ほとんど変わらない店舗が多かった。

【設備投資】「売場を改装して、扱うブランド数を増やした」と話す店舗もあったが、多くの店舗が実施しなかった。来期についても予定している店舗はなかったが、「今年の後半に予定している」との話が、複数の店舗から聞かれた。

【今後の見通し】「個人消費はそれほど悪くないので、前年並みの売上げは見込める」や「客単価が上がるように仕掛けているので、売上げの増加に結びつくことを期待している」などの話が聞かれた。

スーパー（総合・ディスカウント）

『弱い動きが続いている』

【業界の動向】商業販売統計によると県内スーパーの販売額は、既存店ベースでは平成17年12月に21か月ぶりに前年同月を上回ったが、平成18年1月からは下回って推移している。全店ベースでは平成18年10月に20か月ぶりに前年同期を下回った後、11月以降は上回って推移している。

【景況感】「全体的に良くなっていると思うが、実感がわからない」、「競合店が増加してパイの食い合いとなっており、非常に厳しい状況にある」や「買い入れ点数は増加したが、客単価は減少しているので、売上げは増えない」などの話が聞かれ、弱い動きが続いている。

【売上げ】暖冬と競合他店の影響による話が多く聞かれ、すべての店舗で「減った」としている。暖冬については、「セーターやマフラーなどの冬物衣料や毛布・羽毛布団などの寝具が売れなかった」や「暖房器具やスキー用品が振るわなかった」などの声が聞かれた。また、競合他店については、「近年、売上げが立ちやすい食料品に特化する店舗が増えており、競合が激しくなっている」や「近隣に大型ショッピングモールが出店し、売上げが全般的に減った」などの声が聞かれた。

品目別については、食料品は各店舗とも堅調であった。「野菜、果物を中心に好調だった」、「米（ブランド米・無農薬米）やパンが売れた」や「加工品や日販品は堅調だった」などの声が聞かれた。

その他の商品では、「キャリーバックなどの旅行関連商品は引き続き順調である」、「健康志向からか、自転車売れている」や「旅行、カルチャー教室やスポーツクラブなど、シニア層のサービス消費が増えてきている」などの声が聞かれた。

【採算性】「競合店出店の影響で売上げが減少し、悪くなった」とする店舗もあったが、「作業の効率化により経費が削減され、良くなった」や「食料品や住生活用品を中心に、利益が上がった」など、「良くなった」とする店舗が多かった。

【設備投資】当期に実施した店舗はなく、また来期についても実施予定の店舗はなかった。

【今後の見通し】「良い方向に向かっていくと思う」、「このまま変わらず、普通である」や「家計の状況は今後も厳しいままなので、良くなれないと思う」など、様々であった。

(2) 商店街 『厳しい状況が続いている』

- 【業界の動向】平成19年3月の内閣府の月例経済報告は、個人消費について、「おおむね横ばいとなっている」と総括している。
- 【景況感】「いまいちお客の財布の紐が緩まない」ことなどから、「不況と普通の間くらいである」との声が多く聞かれ、厳しい状況が続いている。
- 【来街者数】「暖冬のおかげか、人の出は悪くなかった。昨シーズンよりいくらか多かったか」との声も聞かれたが、「それほど変わっていない」との声が多く聞かれた。また、来街者が多い商店街からは、「先日、県内のある商店街に行ってきたが、店が半分閉まっていて、人が歩いていないのを見て驚き、危機感を覚えた」との話も聞かれた。
- 【売上げ】「商店街の店舗の半分は何とか現状維持、残りの半分は少しずつ減ってきている」や「以前と変わらず、どこの店主もみな大変と言っている」など、どの商店街も苦戦している。
- 【元気なお店】元気なお店はないかと尋ねてみたが、「各店舗が元気になるように努力しているのは感じるが、実際の元気さは感じない」や「商店街内に元気なお店は見当たらない。また、近隣の商店街を見てもないようだ」などの話が多く聞かれた。それでも、「旅行業などレジャー関連の店は、団塊の世代の消費を取り込んでなのか、良いようだ」や「地元の店は良くないが、チェーン店は良い」などと話す商店街もあった。
- 【設備投資】当期は実施している商店街はなかったが、「年末に、大学の研究室の助力を受けるなどして、商店街内でほぼ手作りのイルミネーションを点灯させた。それが良かったということで、近隣の他の商店街でもイルミネーションを点灯させ、さらにそちらでは、年間を通じて継続するそうだ」との話が聞かれた。
- 【今後の見通し】「買う気があるお客がちらほらとみえる。いくらかは良くなる兆しだろう」との声も聞かれたが、「先が見えない。まったく分からない」と、先行きを不安視する声が多く聞かれた。

3 情報サービス業(ソフトウェア業) 『おおむね横ばい』

- 【業界の動向】経済産業省の特定サービス産業動態統計調査によると、情報サービス業の売上高は、平成18年9月に9か月ぶりに前年同期を下回った後、10月以降は4か月連続で前年同期を上回っている。
- 【景況感】「手応えとしては良く、需要は相当あるが、マッチングがうまくできていないので伸びない」や「景況感は普通より少し良い」など、おおむね横ばいとなっている。
- 【売上げ】「システム開発の増加により、少し増えた」と話す企業があったものの、「長く受注していた仕事が終わったが、他の業務を受注してカバーしたことにより、ほぼ前年並みである」や「全般的に横ばい」など、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。
- 【受注単価】「データ入力下落している」との声が聞かれたものの、「社員がスキルアップしているので、少しずつ上がっている」や「SEの配置換えを実施して人員を減らそうとしたところ、先方の企業から『受注単価を上げるから元の人数を残してほしい』と言われた」などの声が聞かれ、上昇傾向にある。
- 【人件費】「人員増により増えた」とする企業が多くみられた。来期以降については、どの企業も「新規採用による人数増の分が増える」としていた。
- 【採算性】「ほとんど変わらない」とする企業が多くみられた。
- 【個別分野の状況】システム開発の関連については、「製造業は、小さな企業も活発になってきている」、「食品の包装用材関連については、IT投資の意欲が旺盛である」や「金融業については、県内の拠点を含め活発である」などの話が聞かれた。ただ、「派遣・受託開発は相変わらず案件はたくさんあるが、技術者の不足により受注できない」との話が、当期も聞かれた。
- 【設備投資】ほとんどの企業が実施していないが、「他県で自社ビルを建設した」と話す企業があった。今後については、「サーバ・パソコンのリプレース程度である」と話す企業が多かった中、「建物の老朽化の問題を検討しなくては」と話す企業もあった。
- 【採用】「パートの求人もしているが、人が足りない」、「新規学卒者の求人は、今までは秋で止めていたが、最近は年明けまで実施している」や「前倒しして平成20年度の新規学卒者の採用活動を既に実施しているが、なかなか採用が難しそうだ。採用予定人数を下方修正せざるを得ないか」など、すべての企業が求人でも苦労している。また、中途採用について、「昔は大手にいた人が40代で転職してくる例があったが、最近は27、28歳くらいで他の業種から転職してくる人が増えてきているようだ」との話が聞かれた。
- 【今後の見通し】「引き合いの多さから、良い方向に向かう」と話す企業もあったものの、「先行き不透明」と話す企業が多くみられた。